



FD研修会



FD専門部会

## 本学におけるFD活動

奥田 和重

(前FD専門部会長・アントレプレナーシップ専攻教授)

ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development; FD) とは、教授方法の改善(開発) カリキュラムの改革などを通じて教育の質の向上を目指すもので、大学教員の教育能力向上のための活動や、カリキュラムの開発や改善のための活動、大学の教育目的を達成するための組織改善活動などを含みます。ファカルティ (Faculty) は「教授団」のことで、大学教授職である大学教員の集団・組織を意味しており、ファカルティ・ディベロップメントは「教授団の資質開発」や「教授能力開発」などと訳されていますが、カタカナ用語である「ファカルティ・ディベロップメント」や略字の“FD”が広く用いられています。

本学では、平成11年当時に活動していた「教育課程改善委員会」のもとに「FD専門部会」を設置して本格的なFD活動を開始しました。FD専門部会の活動は、授業を受けた学生が「この授業を受けて良かった」「この授業を受けてためになった」と思わせる「満足度」の向上と、卒業生を採用した企業に「さすが商大生」と感じさせる「卒業生の質の保証」を目的に、教員を各種研修会に派遣したり、FD活動に関して著名な先生による講演会の開催などを行ってきました。その中でも教員同士による「授業参観」はテレビや新聞などで取り上げられ、学内外で大きな反響を呼びました。この「授業参観」は、教員がお互いの授業を参観し忌憚のない意見交換を行って授業のいいところは伸ばし、良くないところは改善する、というものです。FD専門部会はこのような活動を行ってきましたが、活動を始めた頃は「FDって何?」「なぜFD活動をしなければならないのか?」といった無理解や反発がありました。これは大学教員の意識の中に「学生は自ら学ぶものであって、授業はあれこれ工夫するようなものではない。まして学生が先生(の授業)を評価するなんて、とんでもない!」という感覚があり、本学教員だけでなく多くの大学教員がこのように考えていました。そこで、FD専門部会では学長らによるトップダウンのFD活動ではなく、徐々に仲間を増やしていく草の根的なFD活動をすることにし、学報に「FDコラム」を連載するなどの広報や「授業参観」の参加者を増やしていくといった活動を行いました。FD活動を始めてから6年あまり経過した現在では、多くの教員がFD活動に対して理解を示し協力をしています。本学の教員は「わかりやすい授業」「よりよい授業」を行うことによって「教育の質の向上」を目指しています。

## 授業改善を考える

大矢 繁夫

(FD専門部会長・商学科教授)

2年前に私は、FD専門部会のメンバーになることを気軽に引き受けました。しかしその後、折に触れ、大学における教育・研究の意味について、改めて様々な角度から考える状況に置かれたように思えます。以下、「授業改善」について感じていることを記しておきます。

本学では、毎年、学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観等を行い、授業改善を進めようと努力しています。授業改善は、学生が単に授業に「満足」し、「楽しく、役に立つ」と受け止めればよいというのではなく、もっと深い意味があるように思えます。学生が授業に真に満足し、喜びを感じるのは、つまるところ、授業を通して教員から、社会や自然に対する、そして人間そのものに対する、今までにない新たな知見を得る、ということのように思えるのです。やや大袈裟に言えば、授業を通して新たな世界が提示され、学生は総じて新たな体験をするということです。他方でももちろん、授業において、種々の知的技法や諸学のリテラシーについて学生は訓練を受け、そして自分の成長の足がかりを実感できるわけです。このとき、間違いなく満足や喜びを味わうことができるはずですが、同時に教員も、ここにおいて、教育・研究者としての自らを実現でき、学生達が将来において知力・能力を存分に鍛えて自分の人生を創っていけるよう願う次第です。

授業改善という一事は、教員・学生双方に深い問題を投げかけます。教員も学生も、自らの成長・成熟を意識し、喜びを自分のものとしてできるかどうか、そしてなお一段の高みに立てるかどうかなどという問題なのです。



FD講演会